

巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00067160

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



巻 頭 言

学校長 中澤 宏一

本校は、2019年4月に文部科学省WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業拠点校の指定を受け、本校では以下のような取り組みを行ってまいりました。

本事業は、社会の大きな変革としてSociety5.0が訪れようとする中で、我が国の新たな社会を牽引する人材の育成が求められることをふまえ、新たな時代に向けた学びの変革の一つ、さらには、文理両方を学ぶ高大接続改革にも寄与するものと考えております。

WWLコンソーシアムは、高度かつ多様な内容を、生徒個人の興味・関心・特性等に応じて履修可能とする高校生の学習プログラム開発と実践を担うことが期待されており、将来的には、すべての高校生がオンライン・オフラインで参加することを可能にする仕組みづくりを目指しています。

本校では、Society5.0において共通して求められる力

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ② 科学的に思考・吟味し活用する力
- ③ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究心 等

を基盤として、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材の育成に努めてまいりました。今後も国内外の高等学校・大学・企業・国際機関等の協力を得ながら、新たな時代に向けた学びの変革を実現してまいります。

また、テーマを通じた高校生国際会議を昨年度・今年度と開催し、自らの行動変容の実現や生徒主体のオーリングリッシュでの会議の運営等に取り組み、本校生以外にも高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」（ALネットワーク）の拠点校として研究を進めてまいりました。

以上のような取り組みを進めてはまいりましたが、昨年度から現在に至るまで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初予定していた活動を行えない状況が続いています。感染拡大を言い訳にはならないことは重々承知していますが、コンソーシアムを構築するにはオンラインに比重をおいた進め方は難しかったというのが実情です。

そのような中でも、生徒主体の取り組みに重点を置き、持続可能な実践を合言葉に実践し、その成果をようやく形にできたというのが正直なところですが、そのため、稚拙な研究になっていることは否めません。是非、皆様からの忌憚のないご意見やご批判を頂戴できれば幸いです。それを今後の道標にして研究を進めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。